

# 運動疫学 ニュースレター



令和3年3月1日発行

No.15

## 理事長就任のご挨拶

日本運動疫学会理事長／早稲田大学 岡浩一朗

2020年10月に井上茂先生から理事長を引き継がせていただきました。特に今期は、副理事長を筑波大学の中田由夫先生、慶應義塾大学の小熊祐子先生のお二人にお願いし、盤石の体制を整えました。井上前理事長の方針を継承しつつ、更なる学会の発展に向けて尽力していきたいと考えております。2023年9月までの任期となりますので、どうぞよろしくお願いいたします。新たな体制として活動していくにあたり、本学会の課題や展望を整理し、以下について取り組んでいきたいと考えております。

### 雑誌「運動疫学研究」の更なる充実

最近、運動疫学研究への投稿論文も増加しつつあります。査読の迅速化やJ-STAGEへの掲載等に加え、特集・企画の試みなどが奏功しているためと思われま。さらに学会員の方々の良質な運動疫学研究の受け皿になるべく、編集体制を整えていきたいと思。学会員の研究支援

### 学会員の研究支援

コロナ禍の中、2020年度は学術総会を延期、運動疫学セミナー等は中止せざるを得ない状況に追い込まれました。数年間は学会活動も様々な影響を受けることが予想されます。今後は、学術集会や運動疫学セミナー等を形式に拘ることなく充実させ、運動疫学に関する研究の歩みを止めることのないよう工夫していきたいと思。社会への情報発信

### 社会への情報発信

コロナの真っ只中、2020年4月には公式声明委員会が中心となって取りまとめた「新型コロナウイルス感染症流行下の身体活動不足・座りすぎ対策

が公開され、非常に多くのマスメディアに取り上げていただき、学会のプレゼンスを高めることができました。今後も、学会員へはもちろんのこと、社会に対しても学会としての考え方や学会員の研究成果等について積極的に情報発信を強化していきたいと思。国際化の推進・国内他学会との連携

International Society for Physical Activity and Healthには比較的多くの学会員の方が参加されており、学会としての目指すべき方向性も近いのではないと思。最近オーストラリアでも、Australasian Society for Physical Activityなる学会が発足し、身体活動・座位行動に関する研究の推進体制が整えられつつあります。その他、国内の他学会も含め、積極的に学術交流することにより、本学会が最先端の運動疫学研究を生み出すプラットフォームになれるように努力したいと思。今期の学会の体制について

今期も学会活動を活発に行うべく、各委員会の委員長には若手の先生方を中心にお願いしました（敬称略）。

- ・編集委員長：笹井 浩行（東京都健康長寿医療センター研究所）
  - ・学術委員長：原田 和弘（神戸大学）
  - ・セミナー委員長：門間 陽樹（東北大学）
  - ・総務委員長：川上 諒子（早稲田大学）
  - ・プロジェクト研究委員長：齋藤 義信（神奈川県立保健福祉大学）
  - ・公式声明委員長：甲斐 裕子（明治安田厚生事業団体力医学研究所）
  - ・広報委員長：難波 秀行（日本大学）
- また、前述しました副理事長の中田

先生には、編集委員会・学術委員会・セミナー委員会を、小熊先生には総務委員会・プロジェクト研究委員



会・公式声明委員会・広報委員会のマネジメントをご担当いただきます。また顧問として、種田行男先生（中京大学）、澤田亨先生（早稲田大学）、田中茂穂先生（女子栄養大学）、萩裕美子先生（東海大学）にサポートをお願いしました。これまでの経験を活かし、大所高所からご指導いただきたいと考えております。一方、監事としてお願いした安藤大輔先生（山梨大学）、北島義典（埼玉県立大学）には、様々な観点から学会活動の点検を行っていただきたいと思。コロナ禍で大変な状況ではありますが、会員の皆様の研究活動がこれまで以上に発展するよう努めていきたいと考えておりますので、皆様方には是非とも学会への積極的な関与をお願いしたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

CONTENTS

1. 理事長就任のご挨拶 .....1
2. 第23回日本運動疫学会学術総会のご案内...2
3. 第24回日本運動疫学会学術総会の予定...2
4. Facebookグループページによる情報交換の活用状況と利用案内...2
5. 私と運動疫学 .....3
6. WHO身体活動・座位行動ガイドライン2020および日本語版のご紹介...3
7. COVID-19と身体活動 .....4
8. 「日本運動疫学会プロジェクト研究」を募集しています...4
9. 事務局移転のお知らせ .....4

## 第23回日本運動疫学会学術総会のご案内

第23回学術総会大会長／武庫川女子大学 内藤 義彦

1. 日 時  
2021年6月26日(土)、27日(日)
2. 会 場  
武庫川女子大学 中央キャンパス  
兵庫県西宮市池開町6-46  
鳴尾・武庫川女子大前駅(阪神本線)から徒歩3分
3. 組 織  
大会長 内藤 義彦  
(武庫川女子大学)  
副大会長 小野 玲  
(神戸大学大学院)、  
野村 卓生  
(関西福祉科学大学)  
事務局 植杉 優一  
(武庫川女子大学)
4. 懇親会  
2021年6月26日(土) 中央キャンパス

ンパス内を予定(COVID-19の影響で変更する場合があります)

5. 参加登録開始時期  
2021年2月中旬(学会ホームページでご案内いたします)
6. 問い合わせ先  
第23回日本運動疫学会学術総会事務局  
(e-mail: jaee@mukogawa-u.ac.jp)  
昨年、COVID-19の影響により延期していましたが、令和3年は「運動疫学の守備範囲と今後の課題」と題し、運動疫学の多様性を採り上げたいと思います。この度の未曾有の感染症によって疫学が重要視されていること、2021年はオリンピック開催が予定されていること等を踏まえ、多岐に渡る疫学研究に関連した話題を企画する予定

定です。その他、ユニークな話題を入れ、実務関係者にも役立つ企画を検討中です。

なお、開催にあたり、感染症予防対策を徹底した運営を行うと同時に、開催方式は対面とリモート配信のハイブリッド型を検討しております。多くの方のご参加をお待ちしています。



## 第24回日本運動疫学会学術総会の予定

第24回学術総会大会長／東海大学 久保田 晃生

日本運動疫学会第24回学術総会は、2021年に東海大学で開催予定でした。



しかし、第23回大会が1年間延期されたため2022年に開催予定です(例年の6月ごろの開催で検討しています)。大会長は、僭越ながら東海大学体育学部の久保田が務めさせていただきます。本学には、久保田以外にも本学会の運営に貢献されています萩裕美子教授や松下宗洋助のほか、数多くの学生が運動疫学セミナーや学術総会に参加しています。そのようなこと

から、本学で開催させて頂くことを大変嬉しく思います。詳細は、今後組織委員で詰めていきますが、コロナ禍において学会員の中でも、人を対象とした研究が計画通りに進まなかったことが考えられますので、二次的データの解析による研究方法などを改めて話題提供したいとも考えております。2022年には多くの参加者による“密”な学術総会が開けるよう、新型コロナウイルス感染症の終息を祈っております。

## Facebook グループページによる情報交換の活用状況と利用案内

広報委員会／帝京大学 金森 悟

複数の学会会員の方々から、気軽にコミュニケーションができるプラットフォームが欲しいという要望をいただき、2019年5月にFacebookに日本運動疫学会のグループを設立しました。このグループは会員のコミュニケーションを図ることを目的としています。

運動疫学に関する情報の共有やディスカッションを行っており、月に10件弱の投稿があります。これまでに投稿された主な内容には、本学会の活動に関する報告、国内外の学会参加報告、論文やセミナーの紹介、日頃の研究や

授業に関する相談などがあります。他にも「〇〇についてご存知でしたら教えてください」といった投稿もあります。

グループに参加するには、日本運動疫学会の会員であることとFacebookのアカウントを持っていることが条件になります。該当のグループをFacebook上で検索し、「グループに参加」というボタンを押してください。管理者が確認後に、メンバーとして承認されます。

登録メンバーであれば、誰でも、いつでも、どのような話題でも投稿が可

能です。まだ投稿する人や投稿数はあまり多くない状況ですが、会員間の気軽なコミュニケーションの場としてぜひご活用ください。



## 私と運動疫学

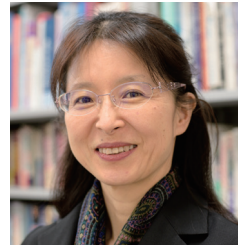
慶應義塾大学 小熊 祐子

私と運動疫学の出会いはいつだったのか。ちょうど大学卒業後間もなく進路に迷っていたころ勤められて1994年のアメリカスポーツ医学会年次集会に参加しました。エビデンスに基づく身体活動ガイドラインが出始めるころであり、運動から身体活動へのパラダイムシフトが大きく謳われました。学会も非常に活気があり、魅了されました。その後1997年学会で来日したI-Min Lee先生と出会います。これがご縁で2000年から3年間ボストンのハーバード公衆衛生大学院に留学し、ご指導いただくことになりました。運動疫学を学ぶと必ず出てくる前向きコホート研究 College Alumni Health Study に従事しました。この

間の1998年に運動疫学会の前身の運動疫学研究会が設立されました。当初から会員です。

ガイドラインができたから人々の身体不活動は改善されたのか。決してそうでないことは皆さんご存知の通りです。行動科学のノウハウを取り入れ、エコロジカルモデルが推奨され、さらに2010年には世界規模で身体活動を促進するための行動を呼びかける「トロント憲章」が採択されます。2018年には世界保健機関が「身体活動に関する世界行動計画2018-2030」を発表します。身体不活動は社会全体の課題であり、システムズアプローチで将来像を考え、身体不活動解消により多くのコベネフィットが得られることを多

分野と共有し実行していくことが重要で、日本でもより推進していく必要があると認識しています。



2018年度の第22回学術総会では会頭を務めさせていただきました。今期からは副理事長を務めさせていただくことになりました。これを機に自分自身も今一度「運動疫学」の基盤を振り返り、かつ、Physical activity and public healthといった視点で、社会に働きかけることも意識し、学会支援に努めたいと思います。

## WHO 身体活動・座位行動ガイドライン2020 および日本語版のご紹介

東京医科大学 井上 茂 天笠 志保

2020年11月に新しいWHO身体活動・座位行動ガイドラインがリリースされました。推奨が示されたのは、①子供と青少年(5-17歳)、②成人(18-64歳)、③高齢者(65歳以上)、④妊娠中・産後の女性、⑤慢性疾患を有する成人・高齢者(18歳以上)、⑥障害を有する子供・青少年(5-17歳)および成人(18歳以上)、の6領域です。このうち、④⑤⑥は2010年のWHOガイドラインにはなかった領域です。また、各領域で身体活動の推奨値が示されただけでなく、座位行動に関する言及が記載されたのも新しい特徴です。ただし、座位行動については具体的な数値による推奨までには至っていません。

ガイドラインの科学的根拠は、主にカナダ(2016)およびオーストラリア(2020)の子ども向け24時間行動ガイドライン、アメリカの身体活動ガイド

ライン(2018)作成時に実施された系統的レビューで、これらはWHOのガイドライン作成チームが設定した基準に該当するレビューとして、本ガイドライン作成の基盤になっています。また、一部に新たな系統的レビューも追加されました。

その内容をみると、成人では中強度の身体活動(3-5.9METs)を週150-300分(あるいは相当する高強度の身体活動、あるいは中高強度の身体活動の組み合わせ)が推奨されました。以前のガイドラインでは単に週150分以上とありましたが、新ガイドラインでは週150-300分と推奨値が範囲で示されています。また、週300分以上でさらなる効果が期待できるとしており、段階的な目標が設定された形になっています。さらに、以前のガイドラインでは150分の身体活動は「10分程度

以上のバウトで実施する」とされていましたが、この新しいガイドラインでは「10分以上」という制約がなくなり、10分未満の身体活動も計算できることになっています。本ガイドラインのプロモーションには“Every Move Counts(少しの動きにも意味がある)”がコピーとして用いられています。

なお、本ガイドラインは日本運動疫学会、国立健康・栄養研究所、厚生労働科学研究費補助金澤田班、東京医科大学公衆衛生学分野の協力のもと翻訳が進められています。要約版は暫定版ですが日本語翻訳がすでに公表されています。ぜひご覧ください。

英語版原本のサイト：<https://www.who.int/publications/i/item/9789240015128>

要約版の日本語翻訳：<http://jaee.umin.jp/news210211.html>



## COVID-19 と身体活動

### 公式声明委員会／プロジェクト研究委員会／広報委員会

外出自粛により、身体活動の低下やメンタルヘルスの悪化への影響が懸念されています。最近、このテーマに関する研究論文も目にするようになってきました。行政機関等から、エビデンスを求める声もあるため公式声明委員会、プロジェクト研究委員会、広報委員会では、COVID-19と身

体活動のテーマについて情報の収集および整理に取組みはじめました。会員向けのコミュニケーションの場としてFacebook（運動疫学会）の活用、一般向けに運動疫学会のHPに情報をコラムとして更新などを予定しております。また、プロジェクト研究ではこのような社会貢献度が高いテーマを期待

しています。日本運動疫学会より正しい情報発信を行うことが重要と考えておりますので、会員の皆様にもご理解、ご協力いただきたくよろしくお願いたします。詳細が決まりましたら、メール等でお知らせいたします。

### 「日本運動疫学会プロジェクト研究」を募集しています(令和3年2月1日～4月30日)

#### プロジェクト研究委員会委員長／神奈川県立保健福祉大学 齋藤 義信

「日本運動疫学会プロジェクト研究」とは、運動疫学分野の発展に寄与するとともに社会貢献度が高い研究プロジェクトとして本学会が認定する研究のことを指します。①新規性・独創性が高い、②大きな成果が期待できる、③社会貢献度が高いなどの要件を満たす運動疫学に資する研究を総合的に判断して認定します。認定されることで、

本学会が有するネットワークとの連結や情報共有などの面で、学会から支援を受けられます。研究期間は3年以内ですが、更新も可能です。

研究代表者(会員に限定)の方は、申請書をプロジェクト研究委員会(jaee.project@gmail.com)に提出してください。申請書は学会HPよりダウンロードできます。採択研究は学術総会

などで公表します。

毎年2月1日～4月30日、7月1日～10月31日が募集期間になります。研究の相談は随時受け付けています。

学会HP (<http://jaee.umin.jp/news/161210.html>)をご確認の上、奮ってご応募ください。

(プロジェクト研究委員会より)

## 事務局移転のお知らせ

### 日本運動疫学会事務局一同

このたび、10月1日(木)より日本運動疫学会は、事務局を以下に移転いたしました。諸般の事情により、ご案内が遅れましたことを心よりお詫び申し上げます。新事務局への移転を機に事務局一同専心努力し、皆様のご期待にお応えする決意でございます。

今後ともご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

まずは略儀ながら書中をもちまして、ご挨拶申し上げます。

新事務局連絡先：

〒359-1192

埼玉県所沢市三ヶ島2-579-15

早稲田大学スポーツ科学学術院内

日本運動疫学会事務局

TEL/FAX 04-2947-7189

e-mail [jaee.info@gmail.com](mailto:jaee.info@gmail.com)

(メールアドレスは変更ありません)



日本運動疫学会の最新情報は公式ホームページを確認してください。公式HP：<http://jaee.umin.jp>



- ・会員の投稿論文を募集しています。
- ・会員の運動疫学研究を支援しています(セミナー、勉強会)。
- ・新規会員を随時募集しています。

発行：日本運動疫学会  
 編集：日本運動疫学会 広報委員会  
 日本運動疫学会事務局  
 〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島2-579-15  
 早稲田大学スポーツ科学学術院内  
 E-mail:[jaee.info@gmail.com](mailto:jaee.info@gmail.com)